

2015ISU スターター・セミナーin グラーツ/トリノ 報告書

文責：R. Oostheim

訳責：佐々木拓

結論／レジュメ

- ・ スタート・トライアルは効果がない。マス・スタートでは、競技会における実際の状況が練習では実行できない。ゆえに、やらない方がいい。
- ・ スケーターがスタートラインに向かい、自身の位置につく際に、ラインに触れてもそれはスタート規則の違反とはみなされない。”Ready”の号令以後は、いかなるラインタッチもスタート規則の違反とみなされる。
- ・ スタート規則の違反のアナウンスは個別に行われなければならない。例えば、「ポジション・ワン、Warning。ポジション・ツー、Warning」とされるべきである。「ポジション・ワン、アンドツー、Warning」のように言うてはならない。
- ・ 不正スタートのためにペナルティーを与えられた後、スケーターがリンクから出るかどうかはレフェリーの裁決である。スケーターはリンクから出るのが最善だが、時にはマットの構造上、時間がかかることがある。特に、地方レベルの競技会では競技会全体の時間が限られているため、スケーターは表情に残ることがあってもよい。
- ・ レースのリスタートの場合、すべての Warning と不正スタートは有効のままである。
- ・ レースの再レースの場合、すべての Warning と不正スタートは無効となる。ペナルティーを受けたスケーターは、レース規則の違反であれ、不正スタートのためであれ、再レースのスタートから排除される。
- ・ スタートラインにおいて、”Ready”の号令の前にブレードの先端を氷に差すことは、不正スタートである。
- ・ スタートラインにおいて、ブレードの先端を氷に差すことは、”Ready”の号令の後であっても、不正スタートである。
- ・ “Ready”の号令の後に大きな音をたててブレードを氷に打ちつけることによって、他のスケーターが位置を離れた場合、それは不正スタートである。
- ・ スタートの際にブレードの先端を氷に差すことは”Wrong Blade Position”と宣告される。

- ・ 最初のコーナー頂点の間にブレードの先端で走ることは”Wrong Blade Movement”と宣告される。

スタート手順の詳述

1. レフェリーが次のレースのための必要な準備がすべて整ったと判断した際、レフェリーはスターターにそれを知らせる。
2. スターターは笛を吹く。
3. この瞬間から、スケーターは限られた時間内にスタートラインにこなければならぬ。この時間を技術的な装置を用いて表示してもよい。この瞬間から、アナウンサーはアナウンスをやめ、音楽も流さないようにする。
2015/16 シーズンではこの時間を 10 秒とする。
4. 時間内にスタートラインに集まらなかったスターターは、スターターから”Warning”を宣告される。その際のスターターは
 - ・ 違反したスケーターのレーン・ポジション
 - ・ “Warning”
 - ・ “Delay”と告げる。
5. スケーターはスタートラインからいくらかの距離をとって整列する。
6. スケーター一人ひとりがアナウンサーにより紹介される決勝レースの場合、スケーターはスタートラインから離れた場所に位置し、アナウンサーからの紹介を待って、スタートラインに向かう。
7. スターターは
 - ・ “Go to the Start”と号令する。
この号令で、スケーターはスタートラインに向かい、スタートラインにあるそれぞれの点につく。スケーターはまっすぐたち、静止する。
スタート位置に向かう間にラインに触れることは違反ではない。
ブレードの先端を氷に差すことは違反であり、そのスケーターには不正スタートが与えられる。
その際のスターターは
 - ・ 違反したスケーターのレーン・ポジション
 - ・ “False Start”
 - ・ “Wrong Blade Position”

と告げる。

8. 次いで、スターターは

- ・ “Ready”

と号令する。

スケーターはそれぞれの点に体の中心をおいた状態で、すばやくスタート姿勢をとり、その姿勢を維持する。

次の行為は不正スタートである。

- ・ スケートの片方または両方をスタートラインの上に、もしくはそれを越えておいた時。
- ・ 両方のスケートを氷につけていない、すなわちブレードの全長が氷に接していない時。
- ・ “Ready”の号令の前にスタート姿勢をとった時。
- ・ “Ready”の号令の後、ゆっくりとスタート姿勢をとった時。

9. すべてのスケーターがスタート姿勢をとり、静止した際、いかなる動きも認められなくなった時、スターターははっきりとした間隔をおいて発砲する。

10. 以下の事例は不正スタートである

- ・ 発砲前に動いた場合。
- ・ スケートが動いてラインに触れた、または越えた場合。
- ・ ブレードの先端から着氷した場合。

11. 不正スタートの場合、スターターは

- ・ 再度発砲する、もしくは／さらに笛を吹いてスケーターを呼び戻す

12. スケーターは遅れることなくスタートラインに戻らなければならない。スケーターがスタートラインにまっすぐ戻らない場合、そのスケーターはスタート遅延のために”Warning”を受ける。

13. 一人以上のスケーターが不正スタートに責任を負う場合、責任あるすべてのスケーターが不正スタートとみなされる。

14. スケーターの一人がスタート位置を離れ、その結果別のスケーターがスタート位置を離れた場合、最初のスケーターだけが不正スタートとみなされる。

15. スケーターの一人が、例えばブレードで氷に大きな音を立てて、その結果別のスケーターが動いた時、それは不正スタートとみなされる。

16. スターターの宣告は以下のとおりである。
 - ・ 違反したスケーターのレーン・ポジション
 - ・ “False Start”
 - ・ 必要があれば不正スタートの理由
 - Moving
 - Wrong blade position
 - Wrong blade movement

一人以上のスケーターが違反をした場合には、上記すべての文言が（スケーター一人ひとりに）繰り返される。
17. スタート規則の違反が複数種類あった場合、それらは生じた順番に宣告される。
18. すでに **Warning** を受けたスケーターが不正スタートをした場合、そのスケーターはペナルティを受け、（レースから）除外される。
19. 除外の際、
 - ・ 違反をしたスケーターのレーン・ポジション
 - ・ “Penalty”

と告げられる。

そして、レフェリーの指示でスケーターはリンクから離れる。
20. レースの最初の不正スタートの後、スターターはすべてのスケーターに
 - ・ “This race has one false start”

と警告する。
21. 2回目の不正スタートの場合、それが誰であってもそのスケーターはペナルティを与えられ、レースから除外される。
22. 除外の際、
 - ・ 違反をしたスケーターのレーン・ポジション
 - ・ “Penalty”

と告げられる。

レフェリーの指示でスケーターはリンクから離れる。
23. スタート後最初の頂点ブロックの前に、スケーターが妨害され、かつ転倒した際は、スケーターは再スタートのために呼び戻される。違反がレース規則によるものかどうかの判断はレフェリーの裁決である。